

協定校留学帰国報告書

記入日	2016年 7月 12日
所属	人文学部人文コミュニケーション学科
学年	4年
留学先大学	オーストラリア シドニー工科大学
留学開始・終了時期	2015年 7月 ~ 2016年 6月 (留学開始時期 3年次) (11カ月)

1. 留学前について

<p>① 海外留学しようと思った理由は何ですか</p> <p>高校 2 年生の時にオーストラリアのメルボルンでホームステイしたことがあり、その時に日本とは全く違う文化を知り、海外に興味を持ち、もう一度海外に行きたいと思うようになったため。 また、就職活動のために英語を勉強したい、日本語が話せない人ともコミュニケーションをとれるようになりたいと思ったため。</p>
<p>② この協定校に決めた理由を教えてください。</p> <p>メルボルンでホームステイをした時に 3 日間ほどシドニーにも行ったことがあり、オーストラリアにもう一度行けたらなと考えていたところ、茨城大学とシドニー工科大学で協定を結んでいることを知り、興味を持ったため。 日本と同じく四季があり、一日の寒暖差は激しいものの、過ごしやすいと聞いていたから。 海外から多くの留学生がシドニー工科大学に来ており、オーストラリア以外の国についても学べると思ったから。</p>
<p>③ TOEFL の受験対策など、語学の準備はどのようにしましたか。</p> <p>TOEFL の受験対策としては、参考書を購入し、それを1日に最低でも2時間はやると決めて勉強した。ライティングやスピーキングは先生に相談をし、添削やアドバイスをいただいた。</p>
<p>④ 単位や教職、就職活動等に関して、留学前にしておいたほうが良いことがあれば教えてください。</p> <p>単位については、留学前にとれるものはなるべく取得しておいた方が良い。他大学で取得した単位の変換を行いたい場合は留学前に学務と相談し、どの科目をとれば単位が変換できるかきちんと確認しておいた方が、帰国後に申請しやすいだろう。 就職活動に関しては、留学している間も日本に関することなどきちんと情報収集をしておいた方が良い。また、帰国後にインターンシップに参加したいと考えているのであれば、準備しておくことも大事であると感じた。</p>
<p>⑤ どのような保険に加入しましたか。() に○をつけてください。</p> <p>a. 留学先大学が指定した保険 (<input type="radio"/>) b. 個人の保険のみ (<input type="checkbox"/>) c. 大学指定の保険と個人保険の両方 (<input type="checkbox"/>)</p>
<p>⑥ 予防接種は必要でしたか。() に○をつけてください。</p> <p>a. はい (<input type="checkbox"/>) 具体的に： b. いいえ (<input type="radio"/>)</p>

2. 留学先での勉強について

① 留学先で履修した科目名、時間数、授業内容についてなるべく詳しく教えてください。

Spring Semester では Australian Language and Culture Course に所属し、Australian Conversation、Performing Australia、Natural Australia (それぞれ週 1 コマ 3 時間)を履修した。

Australian Conversation では IELTS の問題を用いて英語を勉強した。IELTS の Task 2 を期末試験として解いた。

Performing Australia ではオーストラリア出身の芸術家の作品を学び、それらの作品を通して英語を学んだ。毎週、テーマとなっている芸術家もしくは芸術家の作品を取り上げて、それに関して 200-300 単語程度のレポートを書いた。期末課題として、オーストラリアの芸術などに関する 1000 単語程度のレポートを書き、それをもとに 5 分程度のプレゼンテーションを行った。

Natural Australia ではオーストラリアの自然、文化、社会などオーストラリアに関することをざっくりと学んだ。また、英語でのレポートの書き方やプレゼンテーションの仕方についても学んだ。期末課題では、オーストラリアの自然や文化などに関する 1500 単語程度のレポートを書き、それをもとにプレゼンテーションを行った。

Autumn Semester では Faculty of International Studies に所属し、English for University Study(週 1 コマ 3 時間)、Foundations in International Studies、Global Histories(それぞれ、1 時間のレクチャーと 2 時間のチュートリアルが週に 1 コマずつ)を履修した。

English for University Study では主にオーストラリアでの仕事、職場環境、仕事(職場)文化について学んだ。また、英語力の向上やレポートの書き方、ディスカッションなど学部の授業を履修するうえで必要なことを身に付けられるように取り組んだ。ここではオーストラリアで働いている人にインタビューを行い、それに関してレポートを書き、プレゼンテーションを行った。

Foundations in International Studies ではグローバル化とそれに関する諸問題に関して学んだ。期末課題では、世界観と先住民族に関わる問題についてグループプレゼンテーションを行った。また、文化的なグローバル化が引き起こす影響に関して 2 つの国を取り上げてその影響を比較し 2000 単語程度のレポートにまとめた。

Global Histories では初期のグローバル化について、砂糖、アヘン、コットンなどの産物を通して学んだ。これらを通して、どのような人々がどのように関わったのか、どのようにこれらの産物が世界に広まっていったのか、どのように生産され消費されたのか、どのような文化が生まれたのか、どのような現象が起こったのかについても学んだ。期末課題では砂糖、アヘン、コットンの中から 1 つ選びそれがどのように人々の相互依存やつながり、グローバル化に関わったかについて 2000 単語程度のレポートを書いた。また、このような産物を通して、初期のグローバル化がどのように現地の人々(土着民)に影響を与えていったかに関するグループプレゼンテーションを行った。

② 授業履修の際に、注意したほうが良いことがあれば、なるべく具体的に教えてください。

単位変換をする場合は、単位変換ができるものを確認してから選んで履修したほうが良い。

学部での講義を履修する場合は規定の英語能力を満たしていなければならないので、英語能力試験に向けしっかりと勉強したほうが良い。試験を受けて早めに申請しなければ、授業までに間に合わないかもしれないので、Student Center と相談し、計画を立て、期限に間に合うよう注意したほうが良い。

③ 授業に関して、困ったこと、うまくいったこと、努力したことなど、教えてください。

学部で授業を受けることができたが、Australian Language and Culture Course で授業を受けていた時よりもディスカッションの時間が増え、そのディスカッションの内容を発表する機会も増えた。スピーキング対策をしていなかったわけではないが、専門知識や専門用語など勉強していないとディスカッションをするのはかなりきついと思った。そのため、毎週の予習は欠かさず行った。

毎週文献を全部で 100 ページ以上読まなくてはならず、最初はかなり時間がかかったしわからない単語ばかりで理解するのも一苦労だったが、きちんと理解して授業に臨めるよう、毎日文献を読むよう努力した。

分からないことはそのままにせず、小さなことでも先生方に質問し、理解を深めるよう努めた。

なるべく先生方や一緒に授業を受けている友達とコミュニケーションをとるようにし、自分だけが授業についていけなくなるということがないようにした。友達と課題のテーマに関して意見交換を行い、課題をしっかり理解したうえでレポートが書けるように努力した。

3. 留学先での生活について

① 大学がある町やキャンパスの雰囲気はどうでしたか

キャンパス内はいたるところに自習スペースがあり、学習環境が整っていた。ほぼ 24 時間大学が開いているので、試験期間などに関係なく朝早くから夜遅くまで勉強している学生が多かった。ただ、大学で勉強したいときに、自習スペースを確保するのが大変だった。

建物や教室数が多く、最初の頃はマップがないと迷いそうだった。しかし、最初のオリエンテーション期間には、Peer staff という学内を案内してくれる学生たちや、キャンパス探検といったオリエンテーションに参加可能なので、そこで友達を作りながらキャンパス探検できたことが楽しかった。

各建物にカフェや生協のようなもの、タワービルディングにはフードコートやバーが入っていた。レポートで疲れたときや休憩したいときに利用した。バーがあるスペースではときどきイベントが開催されていた。フードコート近くのエリアでは、毎週火曜日、もしくは木曜日の 4 時から 5 時まで Network Cafe と呼ばれる、海外から来ている学生だけが参加でき、さらに無料でコーヒーなどがもらえるイベントがあるので、授業終わりに立ち寄って、留学生たちと交流を深めた。

勉強するときは集中してきっちり勉強し、遊ぶ時は遊ぶというように学生たちの勉強と遊びの切り替えがしっかりしているように感じた。

大学の目の前には大きなショッピングモールがあり、その中には Woolworth と呼ばれるスーパー、ダイソー、フードコート、銀行、ドラッグストアなどが入っており、生活するのには困らないと思った。さらに、住んでいた寮から歩いて 5~10 分程度のところにも大きなショッピングモールがあり、大変便利であった。

大学の前にバス停があり、また近くに駅があるので遠くへ出かけるのにも利用しやすい。空港まで電車が直結しており、10 分程度で空港に着くので、旅行するときなど楽である。

シドニーは思っていたよりも治安がいいと感じた。

夜はバーやクラブに行く人が多く、そのためお酒を飲んで酔っ払っている人や若い人に声を掛けている人が見られたが、なるべく夜に出かけないようにしたり、出かけても一人で歩かないようにしたり、歩いている人が少ないところを歩かないようにしたりすれば比較的平気であると思う。

日本食レストラン、紀伊国屋、無印良品、ダイソー、アジアンショップなど日本の物が買えるお店がたくさんあるので特に困らなかった。

大学から電車で 10 分程度のところにオペラハウスやハーバーブリッジ、そこからフェリーで 30 分のところにはマンリービーチ、タロンガ動物園、大学から電車とバスで 30~40 分くらいのところにボンダイビーチ、電車で 2 時間くらいのところにブルーマウンテンズがあり、こうした観光名所に行くのもとても楽しかった。

② 留学中はどこに住んでいましたか。

- a. 寮 (○) : 何人部屋でしたか (4 人)
- b. アパート () : 何人部屋でしたか (人)
- c. ホームステイ () : 何人部屋でしたか (人)
- d. その他 () 具体的に :

③ 住環境はどうでしたか。

大学の Gumal Ngurang と呼ばれる寮の 4 人シェアのところで生活をしていた。自分の部屋があって、トイレ、シャワールーム、洗面所、キッチン、冷蔵庫、掃除機、アイロン、レンジなどを共有していた。最初に、掛布団、毛布、ベッドシーツ、シャンプー、石鹸などを用意しなければならなかった。また部屋によっては、自分が使う食器、調理器具、ハンガーなども買いに行かなければならなかったもので、初日は大変だった。生活環境を整えるのにかなりの金額を使った。

週に 1 回、ルームキーパーが来て、共有スペースを掃除してくれる。

自分が住んでいた寮からタワービルディングまで 10 分もかからず、通学は非常に便利だった。しかし、大学の図書館までが遠かった。

一緒にシェアをしていたのはオーストラリア人、インドネシア人、タイ人。文化の違いがあり、最初は戸惑いもあったが、なるべく話し合っ問題点を解決していった。ただ、きちんと自分の気持ちを伝えることができたなら、もう少し生活しやすくなったのではないかと思った部分もある。

前述のように、住んでいる場所から近いところにショッピングモールがあったので、買い物をするのに便利

であった。また、寮の出口すぐのところにレストランやカフェがあったので、おなかがすいたときにすぐに買いに行けて便利だった。

思っていたよりも過ごしやすい環境だったのではないかと思います。

④ 食事はどうしましたか。

- a. 大学・寮のミールプラン ()
- b. 主に外食 ()
- c. 自炊と外食が半々程度 (○)
- d. その他 () 具体的に：

⑤ 留学先で他の留学生や現地学生とどのように交流を深めましたか。

授業開始までに様々なオリエンテーションに参加したり、寮で開催されるイベントに積極的に参加したりし、そこで電話番号や facebook を交換した。こうして知り合った友達とご飯を食べに行ったり、観光に行ったり、ほかのイベントに参加したり、一緒に飲みに行ったりした。

また現地学生が自宅に招待してくれたので、一緒にパーティーをしたこともあった。

日曜日は NSW 州内であれば公共交通機関が 2.5 ドルで乗り放題だったので、それを利用して遠くへ行く計画を立て留学生や現地学生たちと一緒に観光に行った。

⑥ 余暇や長期休暇はどのように過ごしましたか。

短い休み期間中は近場の観光名所めぐりをした。

夏休みは 11 月の頭から 3 月半ばころまでであった。その期間中、メルボルンやエアーズロックに旅行に行った。

Autumn Semester では学部について勉強をしたい、学部の授業を受けたいと思っていたので、11 月いっぱい IELTS の勉強に取り組んだ。

IELTS の勉強が終わった 12 月からは日本食レストランでのバイトを始めた。

⑦ 健康管理や危機管理で注意したことについて、アドバイスがあれば具体的にお願いします。

着いてすぐは体調を崩しやすいので、休む時はしっかり休むこと。特にオーストラリアは日本と季節が逆で、慣れるまでに時間がかかるかもしれないので特に注意したほうがいい。現地でも薬は買えるが、常備薬など自分が飲みなれている薬は持って行ったほうがいい。体調が悪く、一人ではどうしようもない場合は、フラットメイトや友達に相談して助けてもらう。日本語対応の医療センターもあるので、いざという時のために確認しておくとうい。

オーストラリア国内だけではなく、国外での出来事にも目を向けておく。特にテロやイスラム国関係の事件には注意した。事件があった場所にはなるべく一人で近づかないようにする。現地学生などに危険な場所について聞いておく。そこにはなるべく行かないようにする。

⑧ 文化、習慣、宗教の違いなど、生活全般 (衣食住) に関するアドバイスがあればお願いします。

日本人の中には、自分の思ったことなどをはっきり伝えたら相手に不快感を与えてしまうのではないかと、傷つけてしまうのではないかなどと考え、なかなか自分の気持ちを伝えることができない人が多いのではないかと思います。海外では、自分の気持ちを言わなければ伝わらないし、相手も理解してくれようとしないので、困ったことや嫌なことははっきり伝えたほうがいいと思う。いつか分かってくれると思わないほうがいい。

4. 留学費用について(差支えない範囲でお答えください)

渡航費(往復の航空運賃)	約 300,000	円
保険代(旅行保険・留学先大学で加入する保険など)	約 120,000	円
住居費(寮費)光熱費等含む(月額)	約 104,000	円
食費(月額)	約 30,000	円
その他	約 50,000	円
総額(留学期間中の費用総額)		円

5. 今後の進路等について

① 卒業時期について教えてください。(わかる範囲で結構です)○をつけてください。

a. () 4年で卒業予定

b. (○) 卒業は延期する予定(延長予定期間: 1年)

② 就職・進学のための活動について教えてください。(留学中にしたこと、留学後の予定など)

留学中にリクナビなどから企業情報などを調べたり、自己PRや志望理由などについて考えたり、今後の就活のための準備をした。

夏休み期間中にインターンシップに参加予定。

今後はTOEICを受験する予定。

6. 留学について

① 留学を終えての感想を教えてください。

はじめは、1年の留学は長くていつ終わるのかとかホームシックにならないかとか、心配や不安ばかりだったが、残りの滞在時間が短くなってくると、1年ってあっという間だなと思った。

着いてすぐに友達ができ、寮のイベントに参加して楽しんでいたらホームシックなどの心配もなくなった。

問題があればフラットメイト、友だち、同じ日本人留学生などに相談してやりすごしたし、特に病気やケガもなかったし、大きな事件に巻き込まれるということもなかったので良かった。

授業もAutumn semesterは本当に大変で、単位が取れるか非常に心配だったけど、何とか単位を落とすことがなく終えられたので、本当によかったと思う。

帰国が近づいてくるにつれてやり残したことはないかとか、こんなことをやっておけばよかったとか、後悔や焦りなどいっぱいあったが、振り返ってみると楽しかった思い出や苦しみながらも一生懸命取り組んだ思い出がたくさんあり、オーストラリアでの留學生活は充実していたなと感じた。

今回友達になった人たちと連絡を取り合い、またいつか会えたらいいなと思っている。

また、今回の経験を生かして異文化交流をしたり、就活に取り組んだりしていけたらいいなと思っている。

② 留学して、何が変わったと思いますか。

今までは親や周りの人々の存在とか、近すぎてあまり感じられない部分が多かったが、この留学を通して、費用のこと、準備のこと、帰国後のことなどいろいろな場面で支えてもらっているということが身に染みてわかった。親や周りの人々に対する感謝の気持ち、態度が前よりも強くなったと思う。また、留学前より協力的になったのではないかと感じている。

留學中、慣れないことばかりで生活面や学習面においてたくさんの苦勞を経験した。このことから、これ以上苦勞することはほとんどないだろうと思い、今までは大変そうで手を伸ばさなかったことにも、自分から取り組んでいくようになった。

③ 留学を考えている人へのメッセージをお願いします。

多くの人々が、留學することは楽しそう、とても魅力的だと考えていると思うが、留學は楽しいことばかりではなく、たくさんのトラブルがあることも理解してほしいと思う。実際に留學前の準備や手続きからそう簡単に進むわけもなく、留學が始まってからも生活面や学習面で苦勞することがいっぱいある。それでもやはり、留學に行かないとできない経験や語学学校ではできない経験もたくさんあるので、留學に行きたい、興味がある方たちには、しっかりと考えて準備してから留學してほしいと思う。